

『産業経済研究所紀要』の発刊にあたって

中部大学産業経済研究所長 井関弘太郎

中部大学産業経済研究所は、昭和57年4月1日に発足以来、研究所機関誌として『経営情報』——産業経済研究所紀要——をもち、構成員の研究成果をこれに発表して参りました。平成元年度までに通巻22号を刊行した『経営情報』誌の総目次は、最新号である第8巻第3・4号（平成2年3月）の末尾に掲載したとおりであり、その内訳は、「論文」36編、「研究ノート」17編、「調査報告・ケーススタディ」3編、「時評」21編、「解説ノート」1編、その他「書評」・「学会報告」など13編になっております。

これらの報告を通して、いささかなりとも学界の発展に寄与できていれば幸と願うとともに、各方面から親しくご指導、ご鞭撻をいただけたばかりでなく、多くの研究機関から貴重な学術出版物の交換を賜りましたことに対して、心から感謝いたしております。

このように広く認知していただいた『経営情報』ではありますが、近年、実証的な記述形式をとる論文がふえ、また情報処理におけるフローチャートの挿入などが増すなど、広いスペースを要する図表現の必要性が高まって参りました。このため従来のB-6版の同誌では、紙幅の不足に悩まされることが多くなり、加えて、欧文の引用および文献名の記載が増すのにもなって、これまでの狭小な版では改行が頻繁になり、読まれる方から不便だというお声を聞くようにもなりました。

これらの理由から、中部大学産業経済研究所では、機関誌のサイズを、平成2年度から、B-5版に広げることになりました。

そしてこれを機会に、『経営情報』誌を廃し、機関誌の名称を『産業経済研究所紀要』(The Journal of Research Institute for Industry and Economics)と改め、平成2年度号を「第1号」として発刊したのが本号であります。当誌は原則として各年度ごとに1回の刊行を予定しておりますので、巻号を用いることなく、通刊の号数をもって整理いたすことにしました。

しかし以上のような体裁の改変によって、これまでの『経営情報』誌とのつながりなどにおいて、ご迷惑をおかけした面も少なくないかと存じますが、上述の事情をご諒察のうえ、ご海容いただければ幸に存じます。

研究所員一同も、この新しい形式の紀要の発刊を機といたし、調査・研究に一層精進するつもりでおりますので、これまでに劣らぬご支援、ご教導の賜われることを祈り、新機関誌発足のご挨拶にさせていただきます。